

地域の医療連携の中核を担う りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)

感染症センター

総合内科・感染症内科部長兼感染症センター長兼
院内感染対策室長兼産業医 倭 正也

りんくう総合医療センターは全国に4カ所しかない厚生労働大臣指定の特定感染症指定医療機関であり、西日本では唯一の存在



です。当院の感染症センターはその中でも最も古くに指定を受けており、これまで重症急性呼吸器症候群(SARS)疑い、2009年の新型インフルエンザ、2014年のエボラ出血熱疑似症、中東呼吸器症候群(MERS)疑い、鳥インフルエンザ(H7N9)疑いなどの患者さんの対応を行ってきました。当院の感染症センターでは感染症専門の医師のみならず、特別に訓練された看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師などの医療職さらには事務系の職員が丸となって、日頃より万への備えを充分に行っています。さらに厚生労働省関西空港検疫所、大阪府および大阪府管轄の保健所との合同訓練を毎年2回行うのみならず、厚生労働省研究班の活動として、毎年、西日本を中心とした第一種感染症指定医療機関や行政機関のみなさんに当院にお集まりいただき研修会を開催するなど指導的な立場としての活動も行っています。

患者さんは高度に隔離された特別の病室に入院し、専門のスタッフが対応いたしますので、外来の一般の患者さんや入院中の患者さんに影響がおよぶことはありませんのでご安心ください。今後、準備、訓練を充分に行い、日本を代表する特定感染症指定医療機関としての医療、看護を安全に行いたいと思っています。よろしくお願ひします。

心臓血管外科

心臓血管外科部長兼ICU/CCU部長兼
心臓センター長 松津俊宏

りんくう総合医療センター心臓血管外科では、心臓、大動脈、末梢動脈に対する手術治療を行っています。手術の対象となる病



気は、狭心症(心臓を養う冠動脈が細る、詰まる)、弁膜症(心臓の中にある一方弁がうまく機能しなくなる)、大動脈瘤(大動脈に「こぶ」ができる)、大動脈解離(大動脈の壁が2枚に裂ける)、閉塞性動脈硬化症(足の動脈が細る、詰まる)、下肢静脈瘤(足の内側に血管のこぶが見える)などがあります。これらのうち、狭心症や大動脈解離、閉塞性動脈硬化症などは、胸が痛い、歩くと足が痛いなどの症状が現れて見つかることが多いですが、なかには弁膜症の一部や大動脈瘤のように無症状で進行し、突然死や心不全の原因になる恐ろしい病気もあります。普段からかかりつけ医の診察や、健診を受けていただき、早期に発見し適切に治療することが重要です。

心臓や大動脈の手術というと、大手術、大変な手術というイメージを強く持たれると思いますが、当院では患者さんの体力的な負担をできるだけ軽くするような、様々な手術法を実践しております。例えば、狭心症に対して、心停止とせず、心拍動のまま行う冠動脈バイパス手術、大動脈瘤に対して開胸や開腹を行わずに破裂を予防するステントグラフト治療などがあります。また術後においても、リハビリテーション部門と連携して、より早期からリハビリテーションを開始し、早い退院、早い社会復帰を目指しています。

泉佐野のみなさんが安心して手術が受けられ、地域から心臓・大動脈による突然死がなくなるよう、24時間365日体制で診療にあたっておりますので、いつでもご相談ください。